



学校教育目標 「生命(いのち)輝く子どもを育てる」
 一心はほかほか、学びはしっかり、体ははつらつー」



とひの かふち

《学校だより》 第8号

令和2年7月31日発行
 湯河原町立湯河原小学校
 校長 北村和裕

7月が終わりを迎え、学校もようやく夏休みです。例年は、子どもたちが育てたミニトマトやピーマンなどの実が熟す頃には、夏休みに入ってしまったていて、子どもたちの手で収穫できず残念に思うことがありましたが、今年はその心配もなく収穫の喜びを味わうことができました。

これから、3週間という短い夏休みですが、楽しく充実したものにしたいと思います。そして、8月24日にまた元気に会えることを楽しみにしています。



成長のスピード

先日、1年生が中庭で育てているあさがおの観察をしていました。その時はまだ花が咲いているのは3・4人のものでした。子どもたちからは「なあんだ。僕のは全然育っていないな〜。」「〇〇ちゃんはいいな。花が咲いていて。」と不満顔やうらやましがる声も聞こえてきます。

学校再開の6月の始めに「大きくなれ。花が咲け。」と心を込めてみんなで同じ日に種を蒔きました。ところが、芽が出る日も花が咲く日もみんな違い、早いものもあれば、遅いものもあることを子どもたちは知りました。

人間も花と同じで、成長するスピードが少しずつ違います。すぐに理解して行動に移せる子もいればその時にはわからなくても後でわかって行動できるようになる子もいます。早いことが全ていいとは限りません。それぞれのペースを大事にしながら、じっくりと学び育ててほしいと願っています。子育ても同じことが言えるかもしれません。『そうさ、僕らは 世界に1つだけの花 一人一人違う種を持つ・・・ナンバーワンにならなくてもいい もともと特別なオンリーワン』こんな歌が聞こえてきそうです。

数日後、どの鉢からも見事な花が咲き誇っていました。



6月初旬 思いを込めて種まき



7月初旬 1つ2つと咲き始め



7月下旬 どの鉢からも花が

マスクをしても心が通う挨拶

毎朝、校門のところで挨拶をしています。挨拶の仕方は人それぞれです。急いで通り過ぎながらの子もいれば、立ち止まって挨拶する子もいます。元気な声の子もいれば小さい声の子も。マスクをしていると口の動きがわからず、小さな声では挨拶をしたのかどうかははっきりわかりません。でも、わかる方法があります。それは、目です。目と目を合わせて挨拶をしてくれると表情だけでなく、その子の思いも伝わってきます。その子が明るく前向きな気持ちでいることや、私がいることを意識してくれていることなどが伝わってきてうれしくなるのです。

挨拶の『挨拶』には心を開くと言う意味、『挨拶』にはその心に近づくという意味があるそうです。すなわち、挨拶とは自分の心を開くことで相手の心を開かせ、相手の心に近づいていく積極的な行為です。

お互いの心がさらに近くなるように、夏休みが明けてからも、気持ちよい挨拶ができるのを楽しみにしています。

日直を置かない日

先日、湯河原町教育委員会から通知が出されましたが、教職員の「働き方改革」の一環として、夏休み中に「日直を置かない日」を今年度から設定しました。期間は8月12(水)～14日(金)の3日間です。

この期間に緊急で学校と連絡を取る必要が生じた場合には、湯河原町教育委員会(62-1100)にお願いします。なお土・日曜日や祝日も同様になります。

ご理解、ご協力をよろしくお願い致します。